

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	上毛町			代表者名	坪根 秀介
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	DX推進班	連絡先電話番号	0979-72-3112
担当者役職	主事	担当者氏名	中 亮太郎	連絡先E-mail	
住所	871-0992 福岡県上毛町垂水1321番地1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名	職員のDXに対する意識改革を目的とした研修		
概要	職員のDXに対する意識改革を目的とした研修の実施				
支援を求める分野	人材(DX推進のための機運の醸成) 人材(DXに関する知識習得・研修・育成)				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
対応日・時間	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和6年6月25日	支援・助言&講演(実地)	10時00分	15時30分	
				活動時間(分)	330
2-2.	会場名	上毛町役場本庁	最寄駅	中津駅	
派遣場所	所在地	福岡県築上郡上毛町垂水1321-1	最寄駅からの交通手段	乗合タクシー・タクシー	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	藤井 靖史
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	DXの基本的な考え方をはじめ、OODAループによる事業の実施など、様々な事例を交えた内容の講演が大変参考になった。高齢者のデジタルに関する問題など地域課題や、行政職員の働き方や求められる資質など、内部の諸事情を理解している自治体CDOの立場からの確かつ分りやすい解説があり、受講者から高評価を得ていた。対象職員(課長職・DX推進員・一般)の、職責や役割に応じた話の構成で講演していただいたのが良かった。参加者との質疑応答を講演の合間に5回程度行うなど通常より多く、常時受講者も関心を持ちながら参加することができたとともに、理解の浸透・深化が見られた。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	17人	
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	17			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	職員のDX意識の差は依然として大きく、DXが進まない原因ともいわれている。業務効率化の視点を持った職員を育成し続けることが喫緊の課題である。また、内部の効率化だけでなく、地域共創についても、町サテライトオフィスのオープン(R6.4-)を契機に、多様な主体が連携したDXを進めるきっかけとなることを期待したい。
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	行政DXを推進(住民の利便性向上、業務効率化)する上で、「地域との共創(志を共有できる多様な主体と共に創造する活動)」は不可欠な要素であるため、本事業を通じて、職員がより広い視点を持ちより良いDXを考える機会(きっかけ)とすることで、行政の既存常識からの脱却並びに自ら考え行動できる職員への変容を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	職員の意識改革につながる講演等の企画と実施。 住民の利便性の向上や業務改善、そして、地域共創による地域課題の解決（dX）について、職員一人ひとりが自分事として取り組む意識を持てるように、助言。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	講演実施後の職員アンケートでは、多くの職員が講演に満足しており、新しい気づきや、業務の参考になりそうなヒントを得られたと回答していることから、職員の意識改革につながった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
	別紙アンケート結果参照	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	別紙アンケート結果参照	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
4-4. 事業の最終的な目指す姿	行政DXを推進（住民の利便性向上、業務効率化）する上で、「地域との共創（志を共有できる多様な主体と共に創造する活動）」は不可欠な要素であり、本事業を地域共創について考える機会（きっかけ）とし、まず、行政の既存常識からの脱却並びに自ら考え行動できる職員への変容を図ることが肝要である。 そこから、行政と地域の多様な主体と連携が生まれ、よりの確な住民の具体的なニーズや課題の把握と、効果的な解決策を導き出すことが可能になり、生活環境の改善や地域の安全性向上が期待でき、住民生活の質の向上が期待できるようになる。また、多様な主体と協働することで、新しいアイデアや取り組みが生まれやすくなり、住民の創意工夫が行政施策に反映されることで、地域全体の活力が増し、魅力的な地域づくりの発展につながっていくことが期待できるようになり、これらを最終目標としたい。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

